

# AMDA

## 多様性の共存

# ジャーナル

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)  
<http://amda.or.jp/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
<http://www.amda-minds.org/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター  
<http://amda-imic.com/>

### AMDA との出会い。そして ボランティアのきっかけ

**AMDA:** 本日はお時間とっていただきありがとうございます。早速ですが、現在東京にお住いの渡丸先生が、AMDA と出会ったきっかけを教えてください。

**渡丸:** 私が、菅波代表と初めてお会いしたのは、今から20年前です。当時は東京と岡山で仕事をしており、菅波代表が運営されていた医療法人の会計及び税務の顧問をさせていただくことになったのがきっかけです。毎月の月次決算説明会の後、いつもアムダの話をお聞かせしてくれました。それまで会計士という立場上、企業利益や節税について考えることに時間を費やしてきた私にとって、菅波代表の話は、新鮮でかつ奥が深く、「菅波代表は特別な人なのだ」という思いを抱きました。



「みなさんの活動をお手伝いできることが本当にうれしんです」

**AMDA:** その当時、菅波代表はAMDA以外にも医療法人の経営をしていましたからね。

**渡丸:** そうなんです。医師としての側面だけでなく、病院の経営者としてもご尽力されておりました。なおかつ人道支援活動のNPOを組織し、自らも緊急支援活動に参加されるなど、精力的な活動をされておりました。さらに大学でも教鞭をとられ、各国の要人ともお会

2014年7月25日 VOL.37 第270号 定価550円  
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 郵便振替: 01250-2-40709 口座名: 特定非営利活動法人アムダ

2014年  
夏号

夏

救える命があればどこへでも

## 連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第1回 渡丸 弘之様 (公認会計士)

AMDAの活動は公的資金に頼らず、皆様の募金をはじめとする有形無形のご支援により成り立っています。これまでに様々な形でAMDAを支えてくださっているご支援者の皆様に、インタビュー形式で「支える喜び」として連載をスタートします。第1回目は、長期間にわたりボランティアとしてAMDAを支えてくださっており、2012年度からは監事をお引き受け下さっている渡丸弘之様にお話を聞きしました。



「自分ができることでこれからも協力していきたい」と語る渡丸氏

いになられている方なのに、全くそれを感じさせない、誰に対しても気さくな態度で、その人間性に惹かれました。

### 役に立ちたい。でも、自分 できることはなにか?

**AMDA:** その出会いから、もう20年が経過したというわけですね。そこから今日まで、AMDAを支えてくださっているのですね。

**渡丸:** 本当にいつの間にか、AMDAの決算のお手伝いをするようになっていましたね(笑)。「私でも何かの役に立ちたい」という気持ちはありましたが、それを強く後押ししたのは、菅波代表と、奥様のお人柄そして、実際にAMDAで活動されていたスタッフやボランティアの方々の方です。

「ボランティア」というと「遠い世界」という気持ちがありました。もちろん、自分にも人助けの気持ちがあるけど、実際に支援を行うことができるのは「特別な人」というイメージを持っていました。しかし、みなさんが、それぞれの立場で力を発揮している姿を見て、会計士という立場の自分でも、何か少しでも手伝いができたらいいなと思うようになりました。そこで、自分の仕事を生かして、力になるべく会計を見せていただくようになりました。

### 会計報告からみるAMDAと いう組織の誠実さ

**AMDA:** 会計報告をご覧になって、何

か感じられることがありますか?

**渡丸:** 私がAMDAの会計を見させていただくようになって強く感じたのは「組織の誠実さが帳面に表れている。」ということです。集まった寄付金をプロジェクトごとの口座で管理し、一切の無駄と不明瞭さを排除し、少しでも多く救援活動に充てようという意志を感じました。実際に移動費や宿泊費等の節約できるところは、できる限り安く抑える努力を怠っていないことがわかります。

### 誰にでも役に立ちたい気持ちがある 専門性を生かして支える喜び

**AMDA:** そんな風に評価していただいているとは嬉しいです。

**渡丸:** 私は長期間にわたり、AMDAの決算を見続けてまいりましたが、平成24年度からは、役員として組織の活動及び会計をチェックする監事に就任し、その責任を感じています。皆様からお預かりした寄付を、最大限有効に活用しているかを監督する立場であるからです。まさに、公認会計士という私の職業が生きて確信しています。

「救える命があればどこへでも」のスローガンのもと、被災地にいち早く駆けつけ、救援活動をされるメンバーの方々には正直頭が下がります。私自身は現地へ赴いて活動ができるわけではありませんが、監事としてAMDAの社会貢献活動に参加できることに喜びと誇りを感じています。

**AMDA:** 本日はどうもありがとうございました。

## グローバル人材育成プログラム「おかやま国際塾」4期生が活動開始

おかやま国際塾とは、岡山県内在住の大学生を対象としたグローバル人材育成プログラムです。具体的には研修の企画、立案および実施のすべてに関わる機会を AMDA から提供することにより、国際貢献活動への理解を深めかつ企画および管理能力を身につけ、社会のグローバル化に対応できる人材を養成することを目的として実施しています。AMDA と岡山大学教員が共同で運営する「おかやま国際塾」実行委員会(委員長・菅波茂)で運営されており、2011年からスタート。今年で4年目を迎えます。

2014年度おかやま国際塾4期生4名のメンバーが決定し、6月15日に開講式を行いました。現在、8月のフィリピンでの研修に向けて、準備を進めています。

塾生4名の「おかやま国際塾」にかける思いを以下に抜粋して紹介いたします。



開講式後の研修の様子

### 岡山大学法学部2年 大津 祥子

おかやま国際塾に参加できると知り、とても嬉しく、喜びで心が弾みました。

私がおかやま国際塾に参加させていただきたいと思った理由は、二つあります。

一つ目は、おかやま国際塾の活動内容に魅力を感じたからです。私は将来、海外、特にアジア諸国や開発途上国で仕事をしたいと思っています。おかやま国際塾では、実際に海外に行き様々な活動が出来ることを知り興味を抱きました。

二つ目の理由は、様々な学びを得たいと思ったからです。私は今回の活動を通じて、自分の至らない点を見つけ、そして改善していきたいです。間違えることを恐れずに活動に取り組みます。積極的に、自分の姿勢や心構え等を改善していきます。多様な考え方や想いを学び、そして、あらゆる価値観を受け入れていきたいです。

ひとつひとつの体験が、私の心に、強く、鮮やかに残ると思います。経験を積み、経験から学び、あらゆる活動を通じて、自分自身を成長させる場にしていきたいです。

### 岡山大学法学部3年 永瀬 大騎

私はこのおかやま国際塾に参加して、やっていきたいことが二つあります。

一つはグローバルな視点を持つことです。常に世界のことに興味を持ち、様々な角度から物事を判断することができるのが重要だと考えています。おかやま国際塾では現地の人々と積極的にコミュニケーションを図り、その人々が何を考え、どのようなことに興味を持っているのかについて知ることが大切だと考えています。特に、東南アジアは経済成長を遂げているので、

フィリピンの学生と交流することは非常に価値のあることだと思います。海外に行き、グローバルな視点を養うという意味では、おかやま国際塾の経験は私の将来に必ず役に立つものだと思います。

もう一つは AMDA の理念でもある相互扶助の実践です。私は東日本大震災を受けて、誰かの役に立ちたいと思っていましたが、なかなか行動に移すことができませんでした。だから、このおかやま国際塾ではその思いをもって現地の人が少しでも幸せになれるような活動をしていきたいと思っています。また、その活動が私にとっては貴重な経験であり、学びにつながるものであると思います。こうしたお互いが幸せになれる活動こそが AMDA の理念である相互扶助であり、それを実践することで私自身成長できると考えています。



岡山国際塾4期生メンバー

### 就実大学薬学部3年 松原 嘉子

私は、このようなプログラムに参加できることをとても嬉しく思っています。将来、私が医療分野で国際貢献したいという目標を現実のものにするための第一歩だと考えています。

今まで「海外で働いてみたい、途上国の役に立ちたい」と思っていました。なかなか行動に移すことが出来ませんでした。現在、薬学部へ入学し、一生懸命勉学に励み、薬学を学ぶ立場として、自分が思い描いていた社会貢献ができるのではないかと考えるように

なってきました。このプログラムの中で、専門分野は違っていても、国際的に活動していきたいと考えている仲間たちとプロジェクトを進めていくことは、今の私にとってとても重要なことだと考えています。皆さんと協力しながら、同じ目標に向かって楽しく真面目に活動し、自分の価値観で判断するのではなく、視野を広げていきます。

フィリピンの被災地を訪れるということで、被災地の衛生状況、感染症など、薬学生の立場から、様々な提案ができたらと考えています。

### 岡山大学法学部3年 三宅 香菜子

私は将来、国際的な仕事がしたいと考えています。今回の研修は海外に行くまたとない機会だと思い応募しました。この研修の最大の魅力は、実際に現地に行くことができること、研修の内容を自分たちで計画できることです。

自分がこの活動を通して、悔いのないように全力を尽くし、そこから多くの発見をし、自分の経験値を上げていきたいと考えています。実際に自分がそこへ行き、目で見て肌で感じてこそ、学ぶことができるものも多くあると思います。

さらに充実した研修にするために、私は人との出会いを大切にしたいです。一緒に活動していく仲間や、AMDA の皆さんに出会えたことも何かの縁だと思っています。この活動を通じて、共に一つのことを成し遂げることで強い絆が生まれ、活動後も何らかの形で繋がってほしいです。また、現地の人々との出会いも、楽しみにしていることの一つです。交流を通じて、お互いの文化や価値観を理解し、視野を広げていきたいです。

研修の準備も勉強もアルバイトも頑張らなくて、研修を終えたときには、成長した自分を両親に見せたいと思います。

AMDA では、東日本大震災復興支援事業として「第2次復興支援3か年事業」として「医療・健康」「教育」「生活」を柱とした様々な復興支援事業を継続しています。

絆コンサートを経て 大槌高校吹奏楽部 高校生からのからの手紙

絆コンサートをきっかけとして、つながりが続いている岩手県大槌町大槌高校の吹奏楽部の皆様から、2014年4月にお手紙をいただきました。以下に一部抜粋して、御紹介させていただきます。

昨年度中は岩手県立大槌高等学校吹奏楽部に多大なる支援とご厚情をいただき、たいへんありがたうございました。おかげさまで、平成25年度も町内はもとより、県内外での演奏の機会や、演奏を聴かせていただく機会を数多くいただき、これまでにないほどの充実した部活動を行うことができました。そして、吹奏楽部のみならず大槌高校全体、ひいては大槌町や三陸沿岸地域に向けていただいた皆様の温かい眼差しやお心遣いに、部員一同心より厚く御礼申し上げます。

私たちはこれまでに、この場では書

きつくせないほどたくさんの方々からご支援やご声援をいただき、かつ私たちの未熟な音楽を受け入れていただき、ありがとうございました。アムダー同様には昨年行われた絆コンサートでサポートをしていただき、本当にお世話になりました。これまで支えていただいたたくさんの方に対して、私たちができることはなにもありませんが、せめて部員一同、元気に部活動を続けていくことで、いつかご支援いただいた方々に何かを伝えられるようこれからも活動を継続していきたいと、改めて気持ちを締めるところであります。



大槌高校で開催された第2回絆コンサートの様子

岩手県立大槌高等学校吹奏楽部も出会いの季節を迎え、新たな一步を踏み出そうとしております。間もなく新入生が入学し、平成二十六年の新体制が始まります。私たちはこれからも、演奏を通じて、より多くの皆様に感謝の気持ちを伝えていけるよう、一層の努力を続けていきたいと考えております。そしていつの日か、またお会いできる日が来ることを楽しみにしております。

皆様のますますのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

「復興グルメF-1大会」による被災地間交流  
～風評被害を乗り越える復興支援～

被災地間相互交流事業「復興グルメF-1大会」は、2013年1月に気仙沼で産声を上げました。本大会は、岩手・宮城・福島県が復興のシンボルとなる「復興グルメ」で連携を深めネットワークを構築していくことを目的の一つとした支援事業です。



多くの人が詰めかけた第5回復興グルメF-1大会(南相馬市開催)

当初福島県は、風評被害を理由に食のイベントである本大会への参加を頑なに拒否してきました。説得を繰り返し、2013年6月大会に初めて、南相馬のチームが参加表明をしてくださりました。しかし、それを受けて、全国から多くの問い合わせが寄せられました。様々な声が寄せられる中、南相馬チームが本大会への出場をあきらめなかったのは「食の安全性」を伝えたい、「風評被害からの復興」に踏み出したいと考えていたからです。大会前日まで、南相馬のチームにとっては眠れない日が続きました。しかし大会当日、開催と同時に南相馬のブースには想像を超える長蛇の列ができ、グルメは完売し、初出場で準優勝に輝きました。この南相馬チームの大快挙に、まず歓声をあげ、涙して喜んだのは、出店の苦勞をともに応援してきた岩手県、宮城県の参加者の方々でした。その後2014年1月に福島県南相馬市での大会開催が実現。初の福島開催となった大会では、福島県から新たに4チームに加え、岩手県、宮城県の各チームも応援に駆け付け、過去最多の参加チーム数、来場者数を記録しました。福島の参加者からは「今日が風評被害からの復興の第一歩」との声が上がり、本大会が被災地間の連携を深めるだけでなく、風評被害の払拭を担う大会でもあることを実感しました。

風評被害からの「復興福島」食の支援事業

AMDAは東日本大震災の復興支援の一環として「風評被害からの復興」への取り組みを行っています。その一つとして、「復興グルメF-1大会」を通じて、つながりが深まった福島県南相馬市のお米の共同購入の呼びかけを行っています。岡山までの運搬にかかる費用の支援も行い、一人でも多くの方に風評被害で苦しむ福島のお米を召し上がっていただきたいと考えています。

対象としているのは福島県のオリジナル品種の「天のつぶ」。15年の歳月をかけて開発された「天のつぶ」は、穂が出るときに天に向かってまっすぐ伸びる稲の力強さと、天の恵みを受けて豊かに実る一粒一粒のお米をイメージして命名されました。現在、福島県内で生産した玄米は全て、全量・全袋検査が義務付けられています。従って検査の結果、食品衛生法に定める一般食品の基準値である100Bq/kgを超えた場合は、隔離・保管をし、市場には絶対に流通しません。



今回購入を呼び掛けている「天のつぶ」は2014年収穫予定の新米で、検査を通ったものをお届けします。

購入に関するお問合せ  
AMDA ボランティアセンター  
TEL : 086-252-7700  
FAX : 086-252-7717  
member@amda.or.jp

## ボスニア・ヘルツェゴビナ 洪水被災者に対する緊急医療支援活動



戸別訪問を行う AMDA ボスニア支部の医師ら

ボスニア・ヘルツェゴビナとセルビアを中心としたバルカン半島で5月13日に発生した低気圧により、1894年以降の観測史上最悪となる豪雨に見舞われ、地滑りや、川の氾濫などでボスニアの約40%が洪水の被害を受ける非常事態となりました。

5月16日にAMDAボスニア支部長から救援要請の第一報が入り、AMDA本部から看護師1名を21日に、被災地へ派遣。AMDAボスニア支部の医師らと合流し、現地の状況調査を行い、29日まで支援を必要としている被災者への戸別訪問を行い、健康チェックや支援物資の提供などを実施しました。

未だ支援を必要としている人がいるため、AMDA看護師の帰国後の6月からはAMDAボスニア支部が中心となり

被害の大きかったドボイ(Doboj)、サマック(Samac)を中心に、戸別訪問による支援活動を継続しています。外出して支援や医療サービスを受けることが難しい、支援が必要と判断された被災者を対象に、6月17日までにのべ93人(ドボイ37人、サマック56人)の自宅を訪問し、食糧支援、健康チェック、心理カウンセリング、必要に応じて、遠隔精神カウンセリングなどを行いました。

また1995年まで続いた内戦のための心的外傷後ストレス障害(PTSD)をもっている患者も多く、今回の洪水により再び、精神的ショックを受けている状況が見られました。このことから、精神的サポートの必要性が高いと判断されたため、今後もカウンセリングを中心とした支援活動を継続していく予定です。なお、直接被災者の支援にあっているのはAMDAボスニア支部のセルビア人、クロアチア人医師2名。本支援事業が医療を通じた平和構築につながるものとして、支援対象者の選定については、民族や宗教に関係なく支援が必要と判断される家族に対して行っています。

被災から1か月が経過した6月中旬時点では、水は引いているものの、商店や個人病院など被害の大きかった場所では再開のめどが立っていない状況。またサマック市内の学校は避難所となっており、夏休みを早めて休校の状態が続いており、被災者は未だに避難所生活を続けています。ドボイ市内には避難所がないため、自宅を被災した人々は、親戚や近所の人の上に身を寄せている状況。

なお、この洪水によるボスニア国内の被災者数は、同国の人口383万人のうち150万人。これは人口の39%が被災していることを示している。(ACAPS:5月23日発表)



## フィリピン ボホール島地震 復興支援活動

2013年10月15日、フィリピン南部のボホール島カルメンを震源とするマグニチュード7.2の地震が発生、大きな被害をもたらした。この状況を受け、AMDAは緊急救援活動として物資支援を実施。その後も巨大台風30号が未曾有の被害をもたらした時にはいち早く現地に入り、地震被災者の被害調査を行うなど継続して支援を続けていました。

立て続けに襲う自然災害に疲弊する被災者を元気づけるため、AMDAはクリスマス時期に物資支援を行うことを決定。支援物資を準備して、輸送の手配を進めていたところ、台風30号の支援活動のために物資の輸送が制限され、



地震直後の町の様子

物資の提供が遅れていました。2014年2月9日、セブ島を経由してボホール島に運び込まれた支援物資は、フィリピン協力機関のフィリピン開発アカデミー(DAP)によって、マリボホック町の被災者に届けられました。

ボホール島地震では島内の約80%が被災し、ヘルスセンターなどにも被害が大きかったことから、現在、マリボホック町内のヘルスセンターの再建に向け

て、支援活動を継続しています。



マリボホック町まで物資を届けたDAP協力チーム

### フィリピンピコール大学などと連携協定を締結

5月9日、AMDAはフィリピンルソン島にあるピコール大学とフィリピン開発アカデミー(DAP: Development Academy of the Philippines)、それぞれの団体と平和構築、災害時の連携およびグローバル人材育成に向けての協力を行うことを前提とした連携協定を締結しました。連携を結んだピコール大学は、ルソン島南部のピコール地方に位置し、理学、工学など10学部、1万人を超える生徒数を誇る大学。またフィリピン開発アカデミーは、大統領府直轄の研究・教育機関。

調印式にはAMDAグループの菅波代表、ピコール大学フェイ・ラウラヤ学長、フィリピン開発アカデミーのアントニオ・カウラ学長の3名が調印に臨み、今後の協力について話し合われました。



調印の様子

# AMDA 設立から 30 周年を迎えるにあたって

AMDA グループ代表 菅波 茂



支えていただいたみなさんに感謝の気持ちを伝えたい

## 支えられ続けた 30 年

1984 年 8 月 1 日。この日から 30 年が過ぎようとしています。AMDA 設立の日です。

設立当時の名称は「アジア医師連絡協議会：The Association of Medical Doctors of Asia」。この頭文字をとって AMDA が誕生しました。2001 年 8 月には、岡山県より「特定非営利活動法人」格を取得。1995 年には、国連経済社会理事会（UNECOSOC）より「特殊協議資格」を、2006 年に「総合協議資格」を取得し、国連認定 NGO となりました。さらに、2013 年には認定 NPO 法人の認証を得ました。

この 30 年の活動を振り返り、最初と思うことは、多くの方々に支えられてきたという感謝の思いです。支援者の方はもとより、被災地の活動に参加して下さるボランティアの方々、被災地での活動を共に行うローカルパートナーの皆様、その他多くの方々のご協力があってこそ、AMDA が 30 年の節目を迎えることができました。

## AMDA 活動の原点

私が高校 2 年生の時に 1 枚の写真を見ました。蝉のミンミンと鳴く夏でした。光文社出版太平洋戦争写真集にありました。同じ年頃の若い日本兵が浅瀬で顔を半分沈めていました。日本からはるかに遠い南方戦線です。何故このような死に方をせざるを得なかったのでしょうか。



岡大クワイ河医学踏査隊としてタイなどを訪問  
AMDA 発足のきっかけとなった渡航であった

物の見方や考え方の異なる人たちがどうすれば共栄共存できるのか。平和構築につながるのか。この思いが原点となり、現在の AMDA の活動の理念である「多様性の共存」につながってきました。

## 相互扶助のネットワーク

人間関係には 3 種類あります。フレンドシップ、スポンサーシップそしてパートナーシップです。パートナーシップとは苦労を共にする人間関係です。苦労を解決する過程において相手にすばらしさを発見する時に尊敬の念が、相手が決して逃げないことがわかると信頼の念が生じます。この尊敬と信頼の人間関係が多様性の共存を可能にします。一番危険な人間関係はスポンサーシップです。援助を受ける側にもプライドがあります。

「救える命があればどこまでも」という AMDA のスローガンのもと、災害、紛争、貧困という平和を阻害する要因に対して、より迅速かつ確実に活動を行うために「世界平和パートナーシップ：Global Partnership for Sustainable Peace」構想を掲げています。

「世界平和パートナーシップ：GPSP」構想とは、各分野における参加団体のネットワークを拡充することにより「開かれた相互扶助」による「多様性の共存」を更に実現して世界平和に貢献することです。災害に関しては 2013 年 5 月に「アジア相互扶助災害医療ネットワーク」が発足しました。2013 年 11 月発生のフィリピン台風 30 号の支援活動においても AMDA 多国籍医師団を中核にして参加団体が協力しました。平和構築、生活向上、教育そして健康の分野でもネットワークの設立を予定しています。各分野からの国連諸機関への政策提言は AMDA の有する総合協議資格によってなされます。本当の草

の根からの平和への提言になると確信しています。

## 次の 10 年に向けて

AMDA として開所準備を進めている「GPSP 事務所 in クアラルンプール」の役割は 3 つあります。1 つめは、「世界平和パートナーシップ：GPSP」構想の推進です。2 つめは、グローバル人材育成プログラムの推進です。そして 3 つめは、今後発生しうる南海トラフ地震津波への対策として海外の支援拠点の確保と支援の拡充です。

マレーシアは東南アジアの華僑・中国文化、南西アジアのインド文化とイスラム文化の接点です。飛行時間 3 時間でアジアの主な国に行くことができます。グローバル人材育成プログラムは AMDA の支援者に対する感謝であると共に次世代に「多様性の共存」を学ぶ機会の提供です。具体的には「世界平和パートナーシップ」ネットワークの活用です。同時に、インターンシップを世界各国から受け入れます。

高校 2 年生の時に見た 1 枚の写真が「西のジュネーブ、東の岡山」構想、「世界平和パートナーシップ」構想と「グローバル人材育成プログラム」へと昇華していることに過ぎし年月と共に多くの方々のご協力の賜物と感謝をしています。最後に AMDA とは「多様性の共存」に向けて「開かれた相互扶助」の普及活動をしている運動体であると理解していただければ望外の喜びです。



2013 年 4 月に開催された「アジア相互扶助災害医療ネットワーク会議」の参加者らと

## AMDA 国際業務オペレーションセンター開所のお知らせ

AMDA は 2014 年 7 月 10 日、「GPSP 事務所 in クアラルンプール」を開所しました。緊急救援活動のさらなる迅速性、また人材育成事業の広域展開等に向けて、東南アジアの要所であるマレーシアの首都クアラルンプールに職員が駐在し、主要な国際業務機能を移すことにより、様々な人道支援事業の更なる展開を図ることを目的としています。

GPSP は AMDA インターナショナルの枠を超え、様々な専門分野の組織・団体とネットワークを構築し事業を展開することは、効率の向上にもつながり、つまりは支援者の方々から託されたお気持ちをさらに有意義に活用させていただくことに繋がります。今後共にお一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 2014年4月～6月の動き

〈講演〉		
4月13日	ライオンズクラブ国際協会 336 - B地区第60回地区年次大会記念講演	ライオンズクラブ国際協会 336 - B地区第60回地区年次大会事務局
4月21日	1年宿泊研修 基調講演	岡山県立岡山操山高等学校
4月28日	岡山北西ロータリークラブ例会（卓話）	岡山北西ロータリークラブ
5月9日	創立記念日・聖ジュリーの日	清心女子高等学校
5月25日	第22回日本小児心身医学会中国四国地方会「グローバル化社会におけるチームアプローチ」	高知大学医学部
6月3日	消防職員対象長期研修 平成26年度消防職員コース～非常時における外国人とのコミュニケーション～	財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所
6月3日	デアイ場	岡山県立林野高等学校
6月13日	ほんまもん体験	福山市立神辺中学校
〈大学講義〉		
4/11・4/18・4/25・5/9・5/16・5/23・5/30・6/6・6/13・6/20・6/27	神戸女子大学	国際ボランティア活動論
5/13・5/20	玉野総合医療専門学校	国際看護・災害看護・看護特論
5月26日	岡山大学歯学部	国際医療貢献
〈イベント〉		
4月11日	東日本大震災・フィリピン台風被災者支援 岩永善信 十弦ギターコンサート (会場:Christ Church Cathedral Vancouver) 主催:AMDA Canada、Rose Charities、月刊ふれいざー	
4月13日	第6回復興グルメF-1大会	
4月27日	インドネシア共和国ハサヌディン大学と岡山県立大学との学術交流に関する協定書調印式	
5月2日	岡山県立一宮高等学校「でかけな祭」野土路農場ボランティア	
6月2日	AMDA 野土路農場 田植えセレモニー&アヒル放鳥イベント	
6月3日	第6回倉敷アカデミックウインズ演奏会「こども♪わくわく♪コンサート」注!ははずす? AMDAの主催・講演ありません	
6月26日	茅ヶ崎中央ロータリークラブ NRSF 調印式	
〈本部訪問〉		
4月3日	高松農業高校	
5月9日	全日信販	
5月13日	京山中学校	
〈その他〉		
4月25日	NHKラジオ おカラジ 高校生会出演	
4月27日	高校生会 2014年度第1回定例会	
5月29日	理事会・総会	
6月1日	高校生会 2014年度第2回定例会	

### 【お知らせ】募金箱が新しくなりました～募金箱設置による支援のお願い～

AMDA 募金箱の設置にご協力ください。

プラスチック製・紙製を用意しています、ご希望のものをお知らせください。

すでに設置いただいている募金箱で、古くなったものの交換にも対応させていただきます。

新規設置および募金箱交換についての詳細は、AMDA事務局までお問い合わせください。

募金箱のサイズ プラスチック製：高さ17cm x 幅16cm x 奥行13cm、紙製：高さ15cm x 幅13cm x 奥行7.5cm



## AMDA フードプログラム フィリピン研修生 活動報告

AMDA 野土路農場へ2014年度研修生として来日しているフィリピンからの研修生タンバロ氏、マルティリツ氏は、



高松農業高校でビニールハウスを見学させていただく研修生ら

野土路農場での有機農業の実践や、農場外での研修に精力的に取り組んでいます。

6月20日には島根県立農林大学校、7月4日には岡山県立高松農業高校を訪問し、生徒の皆さんとの交流やフィールドの見学などを行いました。

特に学校として系統的に農場を学ぶことは、フィリピンでは非常に珍しいということもあり、研修のカリキュラムについての質問や学生たちに「どうして農業を専攻しているのか」「どのような

ことを研修しているのか」など積極的な質問を投げかけていました。

そのほか、圃場外での有機農業に必要な様々な技術の研修に積極的に参加しています。

### アムダフードプログラムとは

「食は命の源」をコンセプトにアジアに有機農業を啓蒙・普及することを目的とするプログラムとして2011年からAMDA 野土路農場(岡山県新庄村)を拠点に、有機農業の実践および、アジアからの研修生の受け入れを行っています。

## 国際緊急援助隊総合訓練民軍連携訓練参加の報告

2014年6月20日、21日、陸上自衛隊日本原演習場(岡山県奈義町)で2日間にわたって、自衛隊と民間NGO合同の国際緊急援助隊の活動を想定した訓練が行われ、AMDA スタッフ3名がNGOの立場で参加しました。2004年に発生したインドネシア沖地震津波と同等の災害が発生したとの想定で行われたシュミレーションで、実際に自衛隊と民間のNGOが合同訓練を行うのは初めて。

災害地でのクラスター会議を中心にシュミレーションが行われ、被災地での活動を具体的にイメージさせる内容となりました。訓練の最後には、自衛隊の設置した医療キャンプの視察を行い、2日間の訓練を終えました。

本訓練は、海外での国際緊急援助隊の活動を想定した訓練でしたが、何度も「南海トラフ地震津波」について話題が上がり、今後は国内災害を視野に入れた連携シュミレーションの必要性

も協議されました。



自衛隊の訓練を屋外で見学

## パキスタン家庭健康教育プログラム 調印式・シンポジウム開催報告

2014年6月24日神奈川県茅ヶ崎市で茅ヶ崎中央ロータリークラブが30周年を記念して主催する(協力:AMDA)「パキスタン家庭健康教育プログラム調印式・シンポジウム」が開催され、ロータリークラブメンバーを中心として約60人が来場しました。調印式では、AMDAと茅ヶ崎中央ロータリークラブ、パキスタンのNGOのNRSPの3者が「パキスタン家庭健康教育プログラム」を3年間実施する合意文書を締結しました。

パキスタン家庭健康教育プログラムとは、パキスタンの未婚女性に自分自身や家族の健康を守るのに必要な基礎知識を教えることを目的としたプログラムで、今後3年間にわたり、3者の



3者による調印式の様子

協力のもと実践していく予定です。

調印式にはファルーク・アーミル駐日パキスタン大使、衆議院議員の河野太郎氏ご夫妻、国連人口基金東京事務所の佐崎淳子所長、服部信明茅ヶ崎市長らが来賓として出席され、その後のシンポジウムでは基調講演や参加者による報告、ディスカッションなどが行われました。

### イベントのお知らせ

#### 学生フォーラム

「ボランティアって楽しい」

【日時】

7月26日(土) 13:30~(受付13:00~)

【会場】

クレド岡山8F 第2会議室

#### 岡山県立大学大学院 災害セミナー

「災害医療援助特論」公開講座

【日時】

8月30日(土) 13:15~(受付13:00~)

【会場】

岡山国際交流センター2F 国際会議場

#### 第2回 国際医療貢献フォーラム

「グローバル人材育成の様々な実践」

【日時】

10月4日(土) 10:00~(受付9:30~)

【会場】

岡山国際交流センター8F イベントホール

### AMDA兵庫

#### 4月1日任意団体として独立

AMDA 兵庫県支部が4月1日をもって任意団体「AMDA兵庫」として独立しました。今後は、「AMDA国際医療情報センター」「AMDA社会開発機構」「AMDA国際福祉事業団」とともにAMDAグループ内の団体として連携を取ってまいります。

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



全日信販株式会社様



倉敷鷺羽高校様、FTKイベント委員会様



高松農業高校 メッセージャー高農様